

エシカル通信

人や社会、地球環境、地域に配慮した消費
毎日の暮らしの中でできること

飯田市内の学校でも、エシカルについて様々な形で取り組みを行っています。今年度の取り組みの中から3校についてご紹介します。

下伊那農業高等学校

下伊那農業高校のアグリサービス科生産流通コースの3年生20人が、地域資源の活用を学ぶ授業でシカ革を用いてキーケースを作りました。



革職人木下英幸さんを講師に招き、飯田下伊那地域の鳥獣被害や命の大切さを学びました。木下さんがとった型紙を使って、手縫いで作成しました。



下農の牛のキャラクター「シーモくん」を模したシカ革のキーホルダー



「シーモくん」

授業で学んだことを「下農レザ」にまとめました。またシカ革や鳥獣被害について関心を持ってもらうため、作成したキーケースは校内を中心に販売しました。



裏面にはシカをかたどったかっこいいロゴマークが刻印されています



また別の時間に、(一社)South-Heart理事森本ひとみさんから「SDGs」について学びました。

緑ヶ丘中学校

緑ヶ丘中学校の現2年生が、1年次の家庭科の授業で食品ロスについて学び、食品ロス削減の標語を作成しました。

市役所市民サロンでも令和2年12月～令和3年1月にかけて作品を展示しました。作品の一部をご紹介します。

お母さん
買いすぎてない
ムダなもの

全員で
残さず食べよう
給食を

食べ物
買う時たなの
手前から

竜丘小学校

竜丘小学校4年1、2組は環境問題について学習してきました。令和2年10月26日、そのまとめとしてエシカル消費について学びました。



今地球上で起こっている様々な問題について知り、クイズやワークショップを通じて学びを深めました。未来を担う子どもたちにエシカル目線を身につけてもらえると嬉しいです。

エシカルコラム【アニマルウェルフェア（動物福祉）】

私たちはお肉や卵、革製品など、多くの動物の命をいただいで生活しています。しかし人間が豊かな生活を送っている裏側では、多くの動物たちが苦しんでいます。例えば鶏を狭いゲージに押し込め、卵を産む機械のように扱っていたり、ダウンジャケットや羽毛布団のために、生きた鳥から羽をむしり取ったり、肉の臭みを消すためにオスの子豚を麻酔なしで去勢したり…。このような動物が感じる苦痛をできるだけ少なくしようという考え方が「アニマルウェルフェア」です。この考えに賛同しリサイクルダウンジャケットの販売を行っているアパレル企業があったり、最近では信州大学農学部が照明や密度などの飼育環境を整え、健康的に育つよう管理した養鶏に取り組み、販売を行っています。スーパーでお肉や卵を買う時、また革製品やダウン製品を手にとるとき、その背景で何が起きているかということも考えてみてください。それがアニマルウェルフェアの第一歩となります。